＜平成２９年度版＞

一般知識の足切り対策

はじめに

行政書士試験の一般知識は、「一般じゃない知識」の略。
割と本気でそう思ってます。

一般知識と呼ぶには、あまりにも専門的な問題をよく見かけます。
現役の行政書士でも解けないよね、コレ。
という問題もあります。

しかし、一般知識には足切りラインがあるので、
合格のためには一般知識の得点を運に任せるわけにはいきません。

せっかく合計点が１８０点を超えても、一般知識の点が足りなくて不合格、
ということになってはあまりにもったいないです。

そのため、足切りラインを超えるのに必要な得点は、
確実に取れるように対策をしておきたいです。

一般知識の足切りラインを安定して超えるにはどうすればいいか。
そのために勉強することを、８６ページにまとめました。

「文章理解」「個人情報保護」「政治・経済・社会」「情報通信」と
科目別になっているので、必要なところだけを読んでもＯＫです。

一般知識の足切り対策　目次

はじめに　ｐ２

第１章　行政書士試験の一般知識

１－１　一般知識の概要　ｐ４～５

１－２　「６問正解」の内訳　ｐ６～７

第２章　優先順位１：文章理解

２－１　文章理解から勉強する理由　ｐ８～９

２－２　文章理解の出題傾向　ｐ１０～１３

２－３　文章理解の勉強方法　ｐ１４～１６

２－４　文章理解のおすすめ教材　ｐ１７

第３章　優先順位２：個人情報保護

３－１　個人情報保護も大切な理由　ｐ１８

３－２　個人情報保護の出題傾向　ｐ１９～３０

３－３　個人情報保護の勉強方法　ｐ３１

３－４　個人情報保護のおすすめサイト等　ｐ３２

第４章　優先順位３：政治・経済・社会

４－１　政治・経済・社会が３番手の理由　ｐ３３

４－２　政治の出題傾向　ｐ３４～４５

４－３　経済の出題傾向　ｐ４６～５５

４－４　社会の出題傾向　ｐ５６～６７

４－５　政治・経済・社会の勉強方法　ｐ６８～７０

４－６　政治・経済・社会のおすすめ教材　ｐ７１

第５章　優先順位４：情報通信

５－１　情報通信が最後になる理由　ｐ７２

５－２　情報通信の出題傾向　ｐ７３～８３

５－３　情報通信の勉強方法　ｐ８４

５－４　情報通信のおすすめサイト　ｐ８５

おわりに　ｐ８６

第１章　行政書士試験の一般知識

１－１　一般知識の概要

行政書士試験研究センターのホームページに「試験案内」のページがありますが、そこで一般知識について４つのことが書かれています。
「試験科目」「内容等」「試験の方法」「合格基準」の４つです。

＜試験科目＞
行政書士の業務に関連する一般知識等（出題数１４題）

＜内容等＞
政治・経済・社会、情報通信・個人情報保護、文章理解

＜試験の方法＞
「行政書士の業務に関連する一般知識等」は択一式とします。

＜合格基準＞
行政書士の業務に関連する一般知識等科目の得点が、
満点の４０パーセント以上である者。

まとめると、一般知識は「全１４問」の「択一式」で、
内容は「政治・経済・社会、情報通信・個人情報保護、文章理解」。
合格には「満点の４０％以上の得点」が必要ということになります。

「満点の４０％以上の得点」
これは、具体的には何点なのか、計算してみます。

一般知識は１４問で、１問４点。合わせて「１４問×４点＝５６点」です。

満点（５６点）の４０％以上なので、「５６点×４０％＝２２．４点」。

「２２．４点」が一般知識の足切りラインをクリアする最低点です。
しかし、一般知識は１問４点なので、２２．４点を取ることはできません。

２２．４点に近い点数は、２０点か２４点です。
（５問×４点＝２０点）（６問×４点＝２４点）

２２．４点はこの間にあるので、合格には最低でも６問（２４点）
正解する必要があることになります。

つまり、一般知識の足切り対策とは、言い換えれば
「一般知識で６問以上をどうやって正解するか」ということになります。

１－２　「６問正解」の内訳

一般知識の足切りラインをクリアするには、最低でも「６問」の正解が必要ですが、ここでは、６問の具体的な内訳について解説します。

行政書士試験の一般知識は、大きく４つの科目に分けられます。
「政治・経済・社会」「情報通信」「個人情報保護」「文章理解」の４つです。

年度によって変わることもありますが、各科目の問題数は次の通りです。

	問題数	平成２８年度
政治・経済・社会	７～８問	７問
情報通信	１～３問	３問
個人情報保護	１～３問	１問
文章理解	３問	３問
合計	１４問	１４問

政治・経済・社会で７問、情報通信と個人情報保護で４問、
文章理解が３問の合計１４問が基本イメージです。

上の表に、目標正解数を加えると次のようになります。

	問題数	平成２８年度	目標正解数
政治・経済・社会	７～８問	７問	２問
情報通信	１～３問	３問	２問
個人情報保護	１～３問	１問	
文章理解	３問	３問	２問
合計	１４問	１４問	６問

問題数と目標正解数のバランスが合ってないように思うかもしれませんが、
この目標正解数が一番実現する可能性の高い内訳です。

次に、勉強する順番ですが、おすすめは次の順番です。
「文章理解」⇒「個人情報保護」⇒「政治・経済・社会」⇒「情報通信」

まとめると、一般知識の足切りラインをクリアするには、
最低「６問」の正解が必要になりますが、その内訳は
「政治・経済・社会で２問」「情報通信＆個人情報保護で２問」
「文章理解で２問」が基本形となります。

第２章　優先順位１：文章理解

２－１　文章理解から勉強する理由

一般知識の勉強は、文章理解から始めることをおすすめします。
その理由は、２つあります。

ひとつめの理由は、文章理解の正解率を上げるには、
他の科目に比べて時間がかかるからです。

高校や大学の勉強で「国語は得点が伸びるまでに時間がかかる」という話を
聞いたことがあると思います。
文章理解は国語の問題なので、同じことが言えます。

文章理解の正解率を上げるには、まず「問題に慣れる」ことが大切です。

そして、問題に慣れるには、なるべく早い段階から文章理解の問題を
定期的に解くことが一番の対策になります。

もうひとつの理由は、文章理解は勉強すればするほど、
正解できる確率が高くなるからです。

文章理解は、他の問題と違って「知識がなくて解けない」ということが
起きることはありません。

たとえば、政治・経済・社会の勉強をどれだけしても、勉強していない
内容が問題に出てしまったら、正解できるかどうかは運になります。

文章理解の場合は、今までに読んだことのない文章が問題に出たとしても、
問題を解くのに影響はありません。

なぜなら、文章理解の問題を解くために必要なのは、その文章を読んだことがあるかどうかではなく、「読解力」が身についているかどうかだからです。

読解力は「正解を出すためのヒントを早く・確実に見つける力」のことです。

問題を解くためのヒントは必ず本文にあるので、
そのヒントをいかに早く・確実に見つけられるかが大切です。

文章理解は、時間をかければ誰でも正解を見つけることはできますが、
試験本番では限られた時間（大体１問につき５分程度）で
正解を探さなければいけません。

なるべく短い時間で、確実に正解を見つけられるようになるためには、
まずは多くの問題を解く（量をこなす）ことが大切です。

そして、同じ量の問題を解くなら、短期間で解くよりも、長期間にわたって
解くほうが、読解力は強くなります。

そういう意味でも、文章理解の勉強はなるべく早く始めるのがおすすめです。

２－２　文章理解の出題傾向

行政書士試験の文章理解では、これまでに４種類の問題が出題されています。
「内容把握」「要旨把握」「空欄補充」「並び替え」の４種類です。

＜内容把握＞
「本文の内容と一致しているものはどれか」など、
選択肢の内容が本文の内容と一致しているかどうかを問う問題です。

＜要旨把握＞
「本文の趣旨と合うものはどれか」など、
選択肢の内容が本文の趣旨と一致しているかどうかを問う問題です。
厳密には内容把握とは違いますが、同じような問題と考えて問題ありません。

＜空欄補充＞
「本文中の空欄に入るものとして適当なものはどれか」など、
問題文の中に空欄があり、そこに入る語句や文章を問う問題です。

＜並び替え＞
「本文の後に続く文章の順序として適当なものはどれか」など、
選択肢の文章を正しい順番に並び替える問題です。

次のページに、平成１８年度～平成２８年度の間に、
文章理解で出題された問題の種類をまとめました。